

小・中学校特別支援学級・通級指導教室の「個別の指導計画」の調査結果

大分県教育庁特別支援教育課

1 項目・様式について

(1) 特別支援学級・通級指導教室における「個別の指導計画」に記載された項目の割合

実態	長期目標	短期目標	題材名	時数	指導内容	支援方法	評価	その他
54.2%	83.1%	70.4%	45.7%	19.2%	79.4%	73.9%	66.9%	※

※「その他」の項目の内訳
 学校教育目標、フェイスシート（障がいの状態、検査の結果、関係機関等）、生育歴、家庭での様子、保護者の願い、学習支援の形態（社会科は一斉指導の中で個別に支援する等）、教科ごとの領域（国語の「聞く・話す」「読む」「書く」など）、保護者や交流学級との連携、外部機関による支援に関する記録、検査結果に基づく配慮事項

※調査した「個別の指導計画」の数（県全体合計）は、318事例。

(2) 項目・様式について調査結果の概要

- ・「長期目標」「短期目標」「指導内容」「支援方法」は、高い割合で記載されていた。
- ・「実態」は、100%の記載率の市町村がある一方で、20%未満の記載率の市町村もあるなど、バラつきが見られた。（注：別紙でフェイスシートや実態表を作成したり、「個別の教育支援計画」で実態を整理するなど、まとめ方の違いにより、本調査の対象外の部分に記載されているものも多いと予想される。）
- ・5市町村において市町村ごとに様式を統一していた。
- ・文部科学省、県教育委員会及び県教育センターがホームページ等で示している様式例を、各学校の実態に応じた様式に工夫・改善している例が多く見られた。

2 記載内容について

「個別の指導計画」の作成意義である、児童生徒一人一人の障がいの状態に応じたきめ細やかな指導や、より適切な指導への改善に活用するために適切であると思われる記述内容があった事例について、以下にまとめる。

(1) 「実態」についての記述の仕方の好事例

・各教科に関わる実態が具体的な姿で記述されている。

校種	教科等	「実態（現在の様子）」の記述例
小学校 (知的)	国語	・読み取りについては2～3回読めば大まかな内容を理解でき、文章を読み返したり、挿絵等を手掛かりにして登場人物や状況について答える。
中学校 (知的)	国語	・物語文で登場人物の気持ちを考える時は、授業者の言葉かけを受けて、短い文章で答えることができる。
小学校 (知的)	算数	・繰り上がりや繰り下がりのある2桁の足し算、引き算が筆算で計算できる。 ・お金の学習では、5円、50円、500円を使って揃えることができ、読むこともできる。
中学校 (知的)	外国語	・4線の上に丁寧にアルファベットを丁寧に書くことはできるが、文字の大きさの違いを区別することが難しいため、小文字や単語・文の習得には時間がかかる。
小学校 (知的)	日常生活の指導	・給食や掃除当番の仕事は、声かけをしなくてもできるが、作業態度が日によって違ったり、仕事が雑になることがある。 ・身辺処理はできるが、トイレに休み時間には行かず、授業中に行くことが多い。

※校種の欄の（知的）は、知的障がい特別支援学級の略。

★各教科等に関わる実態（現在の様子）を具体的な姿で記述することで、一人一人の発達の段階等に応じた具体的な指導目標の設定や支援の方法に結びつけることができます。

(2) 「目標」についての記述の仕方の好事例

① 目標が具体的な姿（到達像）で記述されている。

校種	教科等	「目標」の記述例
小学校 (知的)	国語 【読む】	・「〇〇」の詩を教師に読んでもらったり、ペープサートで表現してもらったりして、詩の雰囲気や楽しさを感じることができる。
小学校 (知的)	算数 【数と計算】	・繰り上がり、繰り下がりのある二位数の足し算、引き算を5問連続で正答する。
小学校 (知的)	自立活動 【環境の把握】	・〇〇学級から指定された特別教室まで一人でいくために、目印を覚えておくことができる。
小学校 (知的)	生活単元 学習 【自然観察をしよう】	・理科の教科書に載っている植物を見つけて写真を撮り、教師と一緒に自分の図鑑を作るため、植物の花や葉の特徴が分かる。
小学校 (情緒)	自立活動 【コミュニケーション】	・エレベーター利用や危険な坂道など、必要があれば周りの人に声かけして助けを求めることができる。
中学校 (知的)	外国語 【英語】	・相手と簡単な会話をするため、「Are you ~?」「Do you ~?」といった質問を使うことができる。

※校種の欄の(知的)は知的障がい特別支援学級、(情緒)は自閉症・情緒障がい特別支援学級の略。

② 目標を指導する内容ごとに分類、整理して記述している。

日常生活の指導	<p>挨拶 : 相手の顔を見て挨拶や返事をする事ができる。</p> <p>身の周りの整理 : チェック表を見ながらカバンの中に持ち物を入れる。</p> <p>排泄 : 教師に促され、10時半と13時半にトイレに行く。</p> <p>掃除 : 10回を目安に、水滴が出なくなるまで雑巾を絞ることができる。</p> <p>衣服の着脱 : ホックや紐結びのある服を教師に手を添えられながら着る。</p>
算数	<p>数の意味と表し方 : 20までの繰り上がりのある足し算を、具体物を操作しながら計算する。</p> <p>量と測定 : はかりや体重計を使い、グラムやキログラムなど、生活に必要な重さの単位を適切に使い分ける。</p> <p>図形 : 円、三角、四角の図形を見て名称を正しく答え、形を書くことができる。</p> <p>長さ : 机や教科書、鉛筆など身近なものを比べて、どちらが長いかを正しく答える。</p>

★目標を具体的な姿で記述したり、指導する内容ごとに整理したりすることで、より個に応じた具体的な指導内容を設定することができます。

(3) 「支援の方法」についての記述の仕方の好事例

・「支援の方法」が、具体的な姿で記述されている。

校種	教科等	目標	「支援の方法」の記述例
小学校 (知的)	国語 【書く】	・3年生の漢字を一人で書くことができる。	・画数毎に色分けしたものを使って筆順の確認をしたり、始めはなぞりがきしたりしながら、徐々に一人で書く画数を増やしていく。
小学校 (知的)	国語 【読む】	・2年生の漢字が読める。	・漢字カードを使って読み、読めた漢字には認めシールを貼って意欲を高める。
小学校 (知的)	国語 【読む】	・読み聞かせを聞きながら、登場人物の行動から場面の様子を想像することができる。	・登場人物の挿絵を使って、自分でペープサートを作ったり、会話の部分を吹き出しにして書いたりして、場面の把握がしやすいようにする。
小学校 (知的)	算数 【量と測定】	・水のかさの単位を知り、身近なものを量ることができる。	・計量カップや計量スプーンなどを使う前に、水筒やペットボトルを使って水の量を実感できるようにする。
小学校 (知的)	算数 【量と測定】	・分度器で角度を測ることができる。	・目盛りに合わせてやすいように、測るポイントに印をつける。
小学校 (知的)	日常生活 の指導	・友だちと協力して、進んで係りの仕事にとりくむことができる。	・自分たちだけでできるようになった成就感を持つことができるように、支援学級での仕事を分担し、定着することに少しずつ仕事を増やしていく。
小学校 (知的)	自立活動 【心理的な安定】	・次の活動を意識して行動できる。	・見通しを持ちながら自分から進んで行動できるように、教師の言葉かけや板書で一日の予定や活動内容を知らせる。
小学校 (情緒)	自立活動 【心理的な安定】	・日程の変更があっても、安定した情緒で活動することができる。	・気持ちが不安定になりかけたときは、気持ちの切り替えを図るために、音の少ない落ち着いた場所への移動を促す。
中学校 (情緒)	自立活動 【心理的な安定】	・自分の気持ちが高ぶったときに、落ち着くための方法を選べるようになる。	・集中力が切れそうになったときは、後ろからそっと声をかけて、がんばれそうかどうかを尋ねる。無理なようであれば別の場所に移り、気持ちの切り替えが出来たら戻ってくることを提案する。
中学校 (情緒)	自立活動 【心理的な安定】	・前日の行動や当日の行動を把握し、一日の目標を立てることができる。	・記録ノートを作成し、朝や帰りの学活で計画を作成したり、前日の行動を振り返り、適切な行動を認める。
小学校 (難聴)	国語 【読む】	・教科書の内容を理解するため、必要な部分に注目することができる。	・話者が少し大きめに口の形を見せたり、デジ教科書を利用して、色付きの部分などに注目できるようにしたりする。
小学校 (肢体)	体育 【ボール運動】	検診の結果に合わせ、必要に応じた体力づくりができる。	・球技で投げる・受け止める活動の時は、柔らかいボールで個別に練習を行う。
小学校 (病弱)	自立活動 【健康の保持】	「学校生活管理指導表」を基に、できる活動を確認し、できる方法で参加する。	・行事等の前に、参加できる活動や、本人ができる方法を教師と一緒に紙に書き出す。
小学校 (LD・ADHD)	自立活動 【環境の把握】	・リコーダーを吹くときにスムーズに指を動かすことができる。	・押さえる手ごたえを感じるできるように、リコーダーの穴に適切な大きさの弾力性のあるシールを張る。

小学校 〈LD・ADHD〉	自立活動 【コミュニケーション】	・自分の思いを自分が伝えやすい方法で意思表示できる。	・①課題の意味や状況がつかめない時には、「分かりません、教えてください」と伝える。②考えがまとまらないときには「分かりません、時間をください」と伝える。③与えられた選択肢から選んで伝える。など、相手へ思いを伝える具体的な場面を設定し、ロールプレイをする。
------------------	---------------------	----------------------------	---

※校種の欄の（知的）は知的障がい特別支援学級、（情緒）は自閉症・情緒障がい特別支援学級、（難聴）は難聴特別支援学級、（肢体）は肢体不自由特別支援学級、（病弱）は病弱・身体虚弱特別支援学級、〈LD・ADHD〉はLD・ADHD通級指導教室の略。

★支援の方法を具体的に記述することで、指導目標を達成するためにはどのような手だてが有効であったか（有効でなかったか）が明確になり、その評価に基づき変更・調整していくことで次の授業改善に役立てることができます。また、有効な支援について校内での共通理解を図ることができ、次年度へ有益な情報を引き継ぐことができます。

（４） 「評価」についての記述の仕方の好事例

・目標への到達状況、支援の方法の妥当性について具体的に評価し、次の学習に対する方向性が記述されている。

教科等	目標	支援の方法	「評価」の記述例
算数 【数と計算】	・和が3桁になる足し算を筆算でできる。	・身近な教材であるお金を使って手順を説明した後、確実にできる2桁の繰り上がりのある筆算からスモールステップで学習を進める。	・筆算を手順どおり正確に解くことができた。20問を15分で解くことができる。指を使うことはあるが、念頭操作で解こうとする姿は見られた。繰り上がり2回繰り下がり2回ともできる。
国語 【読む】	・写真や挿絵を参考に、出来事の順序を捉えることができる。	・興味を持てるように、言葉や内容を表す挿絵を見て教師と話しをしながら読む。 ・内容をいくつかに分けて、その都度理解を深めるため、簡単なあらすじについて質問する。	・音読は語りかけるような調子で楽しんで読む姿が見られた。「時」を表す言葉が分かるようになり、4枚の写真を文章の順に並べることができた。「そして」などの接続詞もワークに入れることができたが、自分の作文で使うことはまだできないため、「書く」領域の指導で取り入れていく。
国語 【聞く】	・詩を教師に読んだりペープサートで表現してもらい、詩の雰囲気や楽しさを感じることができる。	・詩の音のリズムに親しむために、「ぴょん」の部分で実際に体を動かしたり、言葉を動作化する。 ・興味関心を持てるように、「かあさん」「とうさん」の部分で児童の父母の写真を使用したり、教師と一緒に歌ったりする。	・カエルのペープサートを見ると声を出して喜び、カエルの真似をするなどの姿が見られた。教師の朗読に合わせてペープサートを動かすなど、意欲的に学習する姿が見られた。

★目標への到達状況、支援の方法の妥当性について具体的に評価し、次の学習に対する方向性を記述することで、PDCAサイクルに基づいた、発展的な指導の計画を立てることができます。

3 各学校・学級等において、項目や記述内容に工夫が見られた事例

児童生徒の実態等に応じて必要と思われる項目を作成したり、校内で共通理解が必要と思われる内容について具体的に記述したりと各学校・各学級等で工夫していた事例を以下にまとめました。

(1) 支援について「集団の場」「個別指導の場」と、場面ごとの支援の方法について記述する項目を作っている。

例：集団の場で（主に交流学級担任が支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を他の児童の前で発表する機会を設け、自尊感情を高める。 ・一斉に指示を出した後、再度個別に声をかける。
例：個別指導の場で（主に在籍学級担任が支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・困りが感じられれば、すぐに答えを伝えず、何が分からないのかを尋ね、できるだけ自分で解決できるようなヒントを与える。 ・自尊感情が高まるように、「がんばりカード」でがんばったことに目を向けるようにし、できたときには言葉で褒める。

(2) 目標に対して現在の様子（実態）がわかるように、「できているが定着度を高める」目標に関しては◎、「これからできるようになる」目標については○で記述する工夫を行っている。

例：日常生活の指導	<ul style="list-style-type: none"> ◎誰にでも元気な声で挨拶できる。 ○用事があるときに相手に自分の気持ちを伝えることができる。
例：国語	<ul style="list-style-type: none"> ◎平仮名を正しく書く。 ○自分が考えたことを文章で表すことができる。

(3) 在籍学級との連携についての配慮事項について記述する項目を作っている。

例：在籍学級との連携についての配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ○通級指導教室で行う学習の内容を知らせ、難しい内容について以下の共通理解を図る。 ・計算の仕方等は、一度に多く提示すると途中で休む場合が多いので、少しずつ提示する。
---------------------	---

(4) 知能検査などの結果に基づいた配慮事項を記述する項目を作っている。

例：WISC-Ⅲ検査結果に基づく配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「符号の弱さ」→見本は手元に置き、書く量の加減をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解の強さ」→経験したことは習得しやすいので実体験を重視する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「一時的に覚えておくことが苦手」→わかりやすい言葉で簡潔に書いた紙や絵カードを渡し、1回に1つのことを伝える。

(5) 配慮事項を「環境の配慮」「学習に取り組むための配慮」などの項目に分けて記述している。

例：環境の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい状況や過剰に不安感を持つ可能性のある行事に対してはスケジュールを知らせ、可能な場合は前もってリハーサルを行う。
例：学習に取り組むための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の学習時間を小分けにして、課題に順番をつけて取り組んでいく学習パターンを取り入れる。

(6) 【】『』◎●の記号を用いて、一つの枠の中に効率よく「領域・単元名・目標・支援方法」を記入している。

例：算数	<ul style="list-style-type: none"> 【領域】 『単元名』 ◎目標 ●支援方法 	<ul style="list-style-type: none"> 【量と測定】 『長さの単位を知り、測定したり、比べたりしよう』 ◎測定したり、比べたりするときは、目盛りの0と端を揃えればよいことが分かり、対象物の端に目盛りの0を合わせて長さを正しく測る。 ●気をつけるポイントを意識できるよう、教師が「端っこを0にぴったり合わせて」「真上から目盛りを見るよ」と動作を言語化して働きかける。
------	---	---